

# 遺跡巡り、いとしえのロマンに想いはせる

## 市内4遺跡発掘調査合同見学会



約40人が参加した伊勢堂岱遺跡の見学会。今年度の第14次調査では、4つの環状列石A・B・C・Dのうち、最も南側に位置する列石Dの本体を発掘調査が行われています。

鳥の頭部を模した土器の一部  
(二重鳥B遺跡出土)



伊勢堂岱遺跡や向様田遺跡など北秋田市内の4つの遺跡の発掘調査見学会が9月1日開かれ、参加した考古学ファンなどが北秋田地域の、いとしえの文化について理解を深めました。

石との違いやどんな祭礼を行っていたのか、などを明らかにしたい」と説明。

縄文人の世界観解明に向けて、伊勢堂岱遺跡

また、環状列石は、20万㎡の広さをもつ遺跡全体の北側の一部に集中していることも謎の一つになっていることを上げ、この場所に作られたのは、北側に見える白神山地や天体の運行などに関係があると考えられていること、なぜ、石を遠くから運ぶという腹の足しにならない作業をしてまで列石をつくったのか、といった疑問を解くために、遺跡北側の眺望をさえぎっている杉などの立木を伐採し、白

神山地や田代岳がよく見えるように

市内外から大勢の考古学・歴史ファンが見学会に

見学会は、市教育委員会と秋田県埋蔵文化センターの合同開催。今年度、北秋田市内では伊勢堂岱遺跡、小又川流域の二重鳥B遺跡、森吉家ノ前A遺跡、向様田D遺跡の4遺跡の発掘調査が実施されています。

この日の午前中に行われた伊勢堂岱

することで、この場所に遺跡を造った縄文人の世界観を知る手がかりとしたいなどと、調査の目的や整備計画について述べていました。

これまで51カ所を調査、森吉山ダム関連遺跡

午後からは、森吉山ダム建設でダムの底に沈む小又川流域の3遺跡の見学会。ダム地内には、61カ所の遺跡が地下に眠っていることがわかっています。県及び市教育委員会では、ダム完成により水没する遺跡について平成7年から調査を開始。これまでに51カ所の遺跡の調査が実施されています。約60人ほどの参加者は、阿仁前田・四季美術館前からバス2台に分乗し遺

10基の井戸跡・下駄なども出土、森吉家ノ前A遺跡

建物跡群の近くには、南北に連なっている10基の井戸跡が発掘され、井戸跡からは、子ども用の下駄一足分なども出土しています。このほか、ここで見つかった宋銭や明銭などの貨幣、戦国時代頃の銅鏡なども現場に展示され、参加

者は、当時の暮らしの中で実際に使われていたこれらの遺物に見入りながら、いとしえの人々の生活を思い浮かべていたようでした。

### 二重鳥B遺跡

縄文時代前期・中期・後期・晩期(約5,000~3,000年前)の遺跡。現在まで、竪穴住居跡14棟分、フラスコ状土坑21基をはじめ配石遺構、土坑、柱穴状ピット、土器埋設遺構などが見つっています。竪穴住居跡は、炉の跡や焼土(熱を受けた痕跡のある土)遺構なども含めると30棟あまりにのぼると考えられています。

また遺物は、土器、石器のほか腕輪状土製品、耳飾り、土偶などの土製品、石刀などの石製品が見つっています。



壁の深さが90cmと比較的深い住居跡

### 向様田D遺跡

縄文時代晩期の遺跡。これまで約20万点の土器破片や2万点あまりの石器など、大量の遺物が出土しています。

右は出土した壺型土器、注口土器の一部。表面の一部に赤い塗料が残っているものもあります



広報きたあきた 19.9.16 14



### 森吉家ノ前A遺跡

縄文時代ほか、鎌倉~戦国時代頃の遺物が出土している遺跡です。場所は旧森吉小学校のすぐそば。森吉集落が形成され始める頃の掘立柱建物跡群、大溝跡、井戸跡など集落の一部なども検出されました

#### 写真

(上)東西に長い4間×9間の大型掘立柱建物跡

(中)10基見つかった井戸跡の一つ。木枠で補強され、中には廃材や石、下駄や箸など生活用品が投げ込まれているものもありました

(下)その一部。左側に見える長さ15cmほどの子ども用の下駄は一足分。数百年前、ここで遊んでいた子どもの姿が見えてきそうです(保存のため、水に浸されています)

直径6.5cmの見事な耳飾り

